

日本映画放送株式会社 第80番組審議会議事録

1. 開催年月日：令和4年2月15日(火) 15時
2. 開催方式：書面および、web会議ツールを用いて実施。
3. 委員(順不同・敬称略) web会議ツールにて出席：菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・砂川 浩慶・鳥居 美砂・宮崎 美紀子、神田 由築・西 正・山川 鉄郎
欠席：田保橋 淳

放送事業者：代表取締役社長 石原 隆
執行役員編成制作局長 宮川 朋之 編成部部長 小川 英洋
制作部長 秋永 全徳 編成部 三瓶 祐毅
編成部 三品 貴志
番審担当 澤 尚志 後藤 健(記)

4. 議題

- (1) 審議事項：時代劇専門チャンネル、日本映画専門チャンネル「三ヶ月連続 北大路欣也映画祭 正月三が日北大路欣也祭」について
- (2) 報告事項：時代劇専門チャンネル「【令和の談志】～没後10年 立川談志傑作選～」について

5. 議題(1)

60年以上にわたり時代劇・現代劇の第一線で活躍を続ける国民的俳優・北大路欣也。最新主演作となる時代劇専門チャンネルオリジナル時代劇最新作「三屋清左衛門残日録陽のあたる道」放送に向けて、日本映画専門チャンネル・時代劇専門チャンネル共同企画で北大路のフィルモグラフィを三ヶ月にわたり特集放送した。その際に、北大路が思い出のある作品については本編放送の前後に本人が撮影時を振り返る特別番組を製作した。2022年お正月三が日は初めての取り組みとなる、両チャンネルで“サイマル放送”を行い、新作時代劇がより多くの視聴者に届くよう編成企画を実施した。

【審議のポイント】

- 1 本企画の編成内容、解説番組の制作、サイマル放送の実施などについて。
- 2 今後、同様の企画を実施するにあたっての改善点・留意点などについて。

【審議のポイント】

6. 議題(1) 審議内容 ※文中敬称略

- ・北大路欣也を時代劇専門チャンネルの顔として定着させたい意図は理解できるが、もう79歳と思うと、年齢的に不安がある。男女問わずに若手の時代劇スターによる活性化も必要ではないか。
- ・日映は時代劇のイメージが強いので、サイマルで放送することで日本映画専門チャンネルにも関心を持ってもらえるチャンスだった。
- ・北大路欣也は、これまで多彩なジャンルの映画の黄金期を経験し、その恩恵を受けてきた貴重な存在である。北大路欣也の作品を通して、過去の映画や時代を振り返る好

機になった。

- ・2つのチャンネルが同じコンテンツを放送することは、加入者の選択肢を狭めることになりかねない。サイマルではなく、各チャンネルで番組を日替わりで入れ替えるという意図なら理解できる。
- ・「北大路欣也祭」と銘打って、過去の出演作と最新作を同時に放送できるのは日本映画放送の強みだと改めて感じた。ラインナップが北大路の人生を代弁するようなラインナップで好感が持てた。
- ・初めて知る作品や昔の日本映画に解説番組があれば作品を楽しむガイドとなるし、そうだったのかと思いついたり、復習する楽しみもある。日本映画を見る上で解説は重要。今後もぜひ続けてほしい。
- ・北大路欣也が健在である今のうちに彼の軌跡や、「三屋清左衛門」のメイキングを交えての北大路の魅力に迫るドキュメンタリーなど目玉となるオリジナル番組も見なかった。
- ・北大路欣也の撮影裏話はどれも興味深かったが、『仁義なき戦い 広島死闘篇』特に千葉真一が段ボールを弾丸よけにするシーンの話は説得力があった。当時の話をもっと深掘りしてほしい。その体験が「三屋清左衛門」につながっているというのも、なるほどである。
- ・サイマル放送はBS放送にもCS放送にもチャンネルを持つ強みを最大限に活かせる取り組みで、視聴結果が気になる。将来的には両方のチャンネルをお互いに利用し、総合編成的に活用できるのではと期待している。

これに対して弊社からの回答は以下の通りであった。

- ・今後もサイマルは乱発せずに強いインパクトを与える企画で行いたい。
- ・北大路さんに続く時代劇スターは、他局で活躍する方も含めていることはいるが、もっと幅を広げなくてはと焦る思いはある。彼らより下の年代だと視聴者が安心して見られないという声もあるので、まずは製作中の豊川の『梅安』を成功させたい。
- ・2つのチャンネルが、それぞれの独自性を維持しつつ、どちらも多くの方に見ていただきたいということは矛盾しかねないが、これらを今後の課題としてチャンネル運営に取り組みたい。

7. 議題（2）報告事項

「天才」「異端児」「落語中興の祖」などの枕詞と共に語られ、現代落語に多大な影響を与えた落語家・立川談志。没後10年の今も新たなファンを増やす談志の貴重な高座や、談志自ら「芸術の神様(ミュージック)が舞い降りた」と称した伝説の高座を放送。さらに、立川談志にゆかりあるゲスト3名が、生前のエピソードや談志への想いを語る特別番組も放送した。以前にも落語を放送したこともあるが、今回の特集はSNSでも「こんなに貴重な高座が見られるとは！」と大きな反響があった。

8. 連絡事項

次回番組審議委員会は、2022年5月17日(火)15時より開催予定。コロナ感染状況により、オンライン開催になる可能性もあり。